

令和3年2月22日

浜松市長
鈴木 康友 様

浜 松 市 議 会
市民クラブ 所属議員一同

新型コロナウイルス感染症に対する提言（3）

1. 浜松街なかの飲食店への支援

2月9日に浜松市独自の経済対策が発表された。今回の対策策定にあたり、様々な検討がなされた事と思うが、以下の点で浜松街なかの飲食店にとっては十分な対策とはならない懸念がある。

ア. 昨年秋に浜松の街なかにおいて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した以降、浜松市の進める安心・安全な認証店を取得していたとしても、街なかでの飲食は良くないというイメージが広まってしまっていると思われること。

イ. 市長は浜松市の進める「安心・安全な認証店での飲食を」と呼び掛けているものの、率先垂範すべき市職員が自粛している状況にある。

ウ. 郊外の飲食店は、一般的に無料駐車場があり家族連れが車で訪れやすい一方で、浜松の街なかでは駐車場が有料となっているため、家族連れが気軽に訪れるには駐車料金負担に抵抗感がある。

エ. 安心・安全な認証店の認証取得にあたり、対応や申請が複雑との声がある。

オ. 浜松市の HP に掲載されている「感染予防対策に係る基準（飲食業）」ならびに「接待を伴う飲食店専用のチェックリスト」では、歌う、合唱することを避けるよう注意喚起を行うとの記載があり、カラオケ利用は禁止との誤解を生んでいる状況にある。

市民クラブとして、今回以下の通り提言する。

（1）市長からのメッセージ

浜松の街なかの飲食店の利用が進みにくい雰囲気払拭するメッセージの発信と合わせて、市長自身が街なかの飲食店を少人数で感染予防を徹底しながら利用することでの安全性のアピール発信すること。同様に、市の職員も街なかの飲食店を利用すること。

（2）地代・家賃（賃料）の支援

街なかへの来訪者の減少に伴う売上の減少に直面する事業者の事業継続を下支えするため、郊外に比べて高額となっている地代・家賃（賃料）の負担を軽減するための支援を行うこと。

（3）街なかでの駐車場料金の補助

家族連れで街なかの飲食店を訪れやすい環境づくりの一環として駐車場料金の補助を行うこと。

（4）感染予防対策に係る基準やチェックリストの見直しについて

飲食店におけるカラオケ利用の可否の明確化とその際に必要とされる感染予防対

策をわかりやすく見直すこと。加えて、見直し後には、飲食店ならびに飲食店を利用する市民への素早い周知を行うこと。

(5) 認証店に必要とされる項目の再点検（見直し）

カラオケ利用の際の感染予防の対策を含めて、認証の取りやすさ、申請しやすさのために、確認項目を最小限にするとともに、各項目の書きぶりやわかりやすい説明の追加と合わせて、現場確認時に飲食店への指導を行うこと。

(6) 可搬式PCR検査ツール・キットの活用

2月には接待を伴う飲食店の従業員を対象にした無料PCR検査を行っているが、浜松市が所持する可搬式PCR検査ツール・キットを活用し、さらなる安心・安全のための環境づくりを行うこと。

(7) やらまいかパスの積極的な利活用

飲食店が自動で継続的な売上、集客を作れる仕組みとして3月8日から実証実験が開始される飲食店サブスクリプション「やらまいかパス」を街なかの飲食店を利用するきっかけ作りとするため、街なかの店舗への紹介、ならびに市民への周知を積極的に行うこと。

2. ワクチン接種についての対応

(1) 高齢者の方を中心に、かかりつけ医での接種を希望する声が多く、浜松モデルの準備状況を適宜情報発信すること。また、医療機関が少ない地域においてはワクチン接種のアウトリーチ対応を図ること。

集団接種会場として、街なかの商業施設や宿泊施設などを活用し、その際の駐車料金は市が補助すること。

(2) ワクチンについての不安解消のための情報提供をすること。

例えば、厚生労働省のHP情報やスマホで簡単に確認できる「コロワくんの相談室」などを浜松市として紹介（活用）すること。

(3) ワクチン接種が進んだ後の社会を想定し、自由な交流や移動、そして経済を回していくための行政対応について調査・検討に着手すること。

例えばイスラエルでは抗体を獲得した証明として、ワクチン接種者に接種済みを示すグリーンパスポート（免疫パスポート）を発行しているが、全国でもいち早くデジタルファースト宣言をした浜松市として、ワクチン接種の情報を活用した浜松モデルを構築し、デュアルモード社会の安心・安全を高める対応を行うこと。

3. 特別定額給付金を受け取れなかった方への対応

(1) 路上生活をされているなど定住の住所がなく特別定額給付金を受け取ることが出来なかった方の調査と、その方々への経済的な支援をすること。

以上